

新市場開拓へのアプローチ②

ユーデコレビュー

人と企業の

活き活き度を測る指標

オフィスは知を創造する場所。そこで働く人が心身ともに活き活きしていなければ、高い成果は期待できない。人が活き活き働け、環境効率よいオフィスをつくるための基準があり、それを評価する「ユーデコレビュー」というシステムが必要になる。

創造性を支えるUD

加藤「創造性を高めるオフィスやオフィスコスト削減など企業の経済活動とどう結びつけていくかが、新ユーデコスタイルのテーマです。待たない時代になりました。エコは「地球のために」ですが、エコノミーでもあり、経済性や効率が基本にあります。一方、クリエイティブは、人が積極的に、前向きに事象を捉えて新しい価値を生み出すことです。UDは、これまでバリアフリーの問題点をなくすというマイナスをゼロにする方向でしたが、ゼロをプラスにするという新しいUDの概念がクリエイティブに直接結び付くと考えています。

似内「オフィスは企業が知を生むための装置と言えます。生産性とUDは結び付いています。米国ノースカロライナ大学の心理学者、フレデリクソンは「人間は働いているときでも、ネガティブで不快な要因があるときでも、元気を確認するような文化になっていけばいい。」

加藤「その考え方を応用して、エコが効率やコスト削減でUDが創造性や生産性の向上とすれば分母と分子を組み合わせた指標ができそうです。」

似内「例えばですが、CASBEを援用して人が活き活きと働き生活するためのベーシックな環境を整えること、それはUDに近いのですが、これを分子にして、分母を環境コストとすれば、ひとつの指標となりうる可能性もあります。ただ、省エネルギーなどの計画論だけではなく、私どもJFMAユニバーサルデザイン研究部会で考案したCASUDA(UD総合評価手法)というオフィスビルのUDレベルを定量化する手法もあります。使っていたらと幸いです(笑)。

使いやすいと同時に不便さも選択できる

加藤「ユーデコスタイルのUDは社会環境エコは生態系。スタイルは空間での人の行為やふるまいだと考えています。」

似内「スタイルという言葉は深いですね。よく言われる「ロハス」のように環境問題を自分の行動様式に落とし込んでいったのがスタイルと見えるでしょう。UDもエコも人間の生活の中にあるまいや文化として定着させたものですね。」

加藤「意識せずにしてしまふ、人の深層心理に浴け込んで、というところが文化だとすると、ゴミの分別が生活の一部になっていることが文化だといえます。朝「おはようございます」とあいさつするのも、お互いの

こばかりが気になって、生産性や価値の創造に結び付かない」といっています。UDは生産性を下支えする役割があるといえます。

加藤「これまで身体中心にUDに取り組んできましたが、一人が活き活きするためには心身の両面を考えていくことが重要です。似内「UDはダイバーシティ(多様性)を受け入れる大きな器というのが私たちの考えです。オフィスのダイバーシティは高齢者、障害のある人のみならず、外国人、妊婦さん、若く元気な人なども対象です。」

加藤「視覚に障害のある人は健常者とは違う経験をしています。彼らの経験を今の創造に使うことが必要です。多様な人がたくさんいれば、いろいろな刺激があります。」

似内「多様な人を広く受け入れるには、UDが有効です。これまでは、気の知れた者同士、同じような価値観を持っている人が集まって物事が進んでいきました。でも、最近チームにいろいろな価値観やバックグラウン

似内「携帯電話を使っていると自宅の電話番号さえも忘れることがあります。脳を刺激して活性化させるのもUDとして考えると、今まで便利さを追求してきたUDが本当にいいのか。社会的に生きていくための能力をしっかりと身に付けていかないと、将来的に人間がダメになるという危機感も含めてUDを見直してみたらと考えています。」

似内「オフィスが便利になりすぎると、みんながものぐさになってしまいかもしれません。でも使いやすいと困る人もいます。結局、UDの考え方もそうですが、使いやすいければ誰にとっても良いはず、というのはなく、ユーザーが難易度を選択できるようにすればいいのです。UDを疑ってみる

ドを持つ人が増えていきます。そして多様性があるほど、知のスパイラルアップが早まる。つまり、UDが知の生産を促す基盤になるのです。

環境とUDの指標

加藤「評価基準がしっかりしてないとレビューはできません。人の活き活き感をどう測定するかが課題です。企業の活き活きは、情報の回転が速く、活用され、理解度が深まることなどでしょう。人の活き活き度や会社の活き活き度が評価できて、活き活き度が落ちている原因も判る。それを改善すればもっと活き活きできるというような共通の指標づくりをしていきたいですね。」

似内「建築の環境性能を評価するCASBEEは分母が建築物の環境品質、分子がその建物が提供する環境品質、つまり人間に対する住環境の提供です。簡単に言えば、分母を小さく、分子が大きくとCASBEEにおける評価は高くなります。」

似内「誰もが使いやすいを享受しないというのとは一種の強制かもしれません。人はいろいろな価値観を持っています。不便さも選べるのが、UDが次に行くべき地点だと思います。それから、今までは機能、デザイン、ユーザビリティなどが、「あれかこれか」といった二元論で語られてきたことが多かったと思いますが、ふたつの独立した変数として、好みのレベルを選び取るかを自分で設定できるようにしたいですね。」

加藤「相反するものを各々のレベルを高めながら両立させる。新ユーデコスタイルでは、そんな提案をしていきたいと思っています。」

CASEBEの考え方

BEE= Q: 建築物の環境品質
L: 建築物の環境負荷



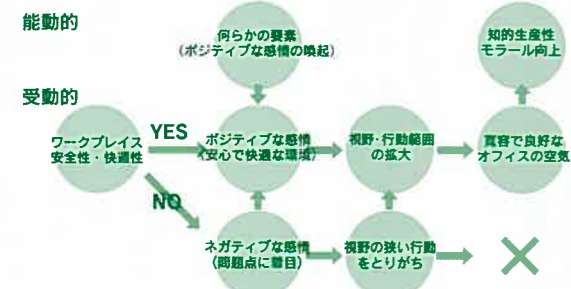
似内志朗さん
日本ファシリティマネジメント推進協会
ユニバーサルデザイン研究部会長



加藤雅士さん
イトーキ オフィス総合研究所 所長

安全な快適な環境

フレデリクソン教授(ノースカロライナ大学心理学、1988)
Broaden-and-build theory of positive emotion
UFMA カレント 2006.5 市川(陽子)氏(満足度の高いワークプレイスはチームワークもいい! | 記事)



ユーデコレビューと総合評価

